

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：82674

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2015～2019

課題番号：15KT0010

研究課題名(和文) 地域循環型家族介護支援システムの構築に関する研究

研究課題名(英文) Research on support system for community-dwelling older adults with long-term care needs and the families

研究代表者

涌井 智子 (WAKUI, TOMOKO)

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所)・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員

研究者番号：70725845

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、わが国の家族介護におけるエビデンスに基づいた介護支援システムの構築を目的とし、現在の家族介護者のみならず、これから介護を担いいうる中年層や、介護を終えた家族(ポスト介護者)らを研究対象として、(1)介護の時間経過に伴う介護家族の日常的縦断データ取得(Care-VIP)による日常における連続的な介護負担を把握し、支援の在り方を検討、(2)働く中高年における親の介護意識の実態とその関連要因を把握、(3)介護を終えた介護者(ポスト介護者)の看取りの状況や精神的健康を把握し、支援の在り方を検討した。さらに、これらの研究知見を基にした情報支援ツールの開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界的にも類を見ないスピードでの超高齢社会における課題に取り組んできたわが国は、元気な高齢者から超高齢者に至るまで、高齢期の様々なタイプの縦断的データの蓄積が行われてきた一方で、介護を担う家族の状況を詳細に把握することはできていない。家族介護者の生活、介護状況、身体的・精神的健康についての縦断的なデータの蓄積は、在宅での介護支援に有用な知見をもたらしている。加えて、本研究は、急速な少子高齢化というわが国の現状において、女性だけでなく男性における家族介護のレディネスを高めること、家族の介護を終了したポスト介護者達の支援につながる研究知見が得られた点で社会的意義が大きいといえる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine a support system for community-dwelling older adults and family caregivers with long-term care needs. By focusing on not only family caregivers but also post caregivers, who experienced providing care to family, as well as middle-aged population, who has not experienced caregiving yet, we delineated needs of comprehensive support system among community-dwelling older adults with long-term care needs and the families. The study also revealed a new feature of caregiving burden, which family caregivers were dealing in their daily caregiving situations.

研究分野：老年社会科学

キーワード：高齢者ケア 介護 家族 ポスト介護 事前準備 レディネス Daily data

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会である我が国が、経済的・社会的に継続性のある介護システムをいかに実現していくかということは、世界から注目される緊迫の課題であり、エビデンスに基づいた介護支援システムの構築が求められている。介護研究における近年の課題は、家族介護者の負担感軽減のための支援の提供と地域における介護と看取りの実現に加え、家族の支援ニーズの多様化に対応した継続的な介護システムを、どのように構築していくかということである。

これまで女性家族に支えられてきた我が国の介護は、晩婚化、未婚率の増加に加え、女性の就業率の増加といった背景により、男性介護、老々介護、認知介護、別居介護や多重介護(要介護者が複数)といった、家族介護形態の多様化という現実と直面し、新たに支援を考えるべきときに来ている。その一方で、従来からの課題である仕事と介護の両立などは、いまや他の家族等からのサポートが少ない独身の子供介護者において増加し、早急な支援が期待される。しかし、従来から介護負担を目的とした介護者教室やピアサポートなどにおける介護者への支援提供のあり方については、介護で時間をとられて忙しい介護者にどのように支援を届けるのかといった問題も、以前残されている。さらには、介護する側、される側、両者の扶養意識の変化に加え、介護保険の導入による家族介護に対する意識の変化もあり、40代50代の親あるいは配偶者の介護に対するレディネスにおける課題が挙げられる。特に、経済状態や婚姻状況等の変化により、男性の介護従事の増加傾向が、国民生活基礎調査等のデータから見て取ることができるが、男性の介護レディネスが十分でない状況も報告される。さらには、家族介護者が高齢化することで、介護期間に孤立化した介護者が、要介護者との死別後の生活再建がより難しく、介護が終わるとすぐに介護をされる側に回ってしまうなどといった課題もあり、現在介護に従事している介護者だけでなく、介護従事の前と後も考慮した介護の支援システムを構築する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、わが国の家族介護におけるエビデンスに基づいた介護支援システムの構築を目的としている。そこで、現在の家族介護者のみならず、これから介護を担う中年層や、介護を終えた家族(ポスト介護者)らを研究対象とし、まず既存文献・資料の精査から、国内外の地域での介護支援システムの在り方を精査し、誰にどのような支援を届けるかという課題を整理した。これらを基に以下の調査研究を実施した。

(1) 介護の時間経過に伴う介護家族の日常的縦断データ取得に関する研究(Care-VIP)

地域在住高齢者の介護を担う家族の日常における継続的な負担を把握し、支援の在り方を検討する

(2) 介護レディネス研究

働く中高年における親の介護意識の実態とその関連要因を把握する

(3) ポスト介護研究

介護を終えた介護者(ポスト介護者)の看取りの状況や精神的健康を把握し、支援の在り方を検討する

(4) 情報支援ツールの開発

上記調査研究の研究知見を家族介護者、ポスト介護者、専門職らを対象に広く還元する

3. 研究の方法

(1) 介護の時間経過に伴う介護家族の日常的縦断データ取得に関する研究(Care-VIP)

まず、地域在住高齢者の介護を担う家族を対象に、日常における継続的な負担を把握することを目的として、介護の時間経過に伴う介護家族の日常的縦断データを取得するためのシステム(Care-VIP)を開発した。さらに、システムでは把握できない介護者らの心理面の状況を把握するためインタビュー調査を実施した。

Care-VIPでの調査内容はDaily項目(5-10分程度)として、ADL、IADLの介護タスク、BPSD、サービス利用、介護者の健康関連行動(睡眠、仕事時間、主観的健康感等)情緒的消耗感、介護満足感、介護日記を、Weekly項目(毎週土曜日+10分程度)として、精神的健康(介護負担感、満足感、Well-being、抑うつ)、ソーシャルネットワーク等を把握した。

Care-VIP: 実際の入力画面は以下の通り

The image displays three screenshots of the Care-VIP system interface. The first screenshot shows a login screen titled '介護の見える化プロジェクト ログイン' with fields for 'ID: ID' and 'パスワード: パスワード', and a '送信' button. The second screenshot shows a survey flow for '今日のアンケートに答える場合' (today's survey) and '未回答アンケート一覧' (list of unanswered surveys), with a '過去のアンケートに答える場合' (previous survey) option. The third screenshot shows a survey question '1) 食事の用意' (meal preparation) with a 'した' (did) button selected, a 'しなかった' (did not) button, and a dropdown menu for '追加の時間' (additional time) with options: '0~1時間', '1~2時間', '2~3時間', '3~4時間', and '4時間以上'.

(2) 介護レディネス研究

民間企業 2 社の協力を得て、企業で働く中高年を対象に、Web を基にしたアンケート調査を実施した。調査内容は、基本属性に加えて、親子間の関係性、職場の介護に対する支援環境、親の介護に対する意識やレディネスの状況とした。

(3) ポスト介護研究

介護を終えた介護者(ポスト介護者)の看取りの状況や精神的健康を把握することを目的に、看取りを経験した家族を対象にした質問紙調査を実施した。

調査内容は、介護や看取り経験の共有に対する経験および意欲、ポスト介護者の年齢、看取った要介護者との続柄、生活状況(仕事の有無、暮らし向き、健康状態、看取りからの経過期間)、介護経験(看取った要介護者の認知症状の有無、看取り場所、在宅での療養期間、介護中の副介護者の有無、看取りに対する全体的満足感)等とした。

(4) 情報支援ツールの開発

在宅での介護に携わる家族介護者、ポスト介護者、専門職らを対象に広く還元することを目的とし、実施した調査研究の知見を基に、家族介護者、介護経験者、専門職らのヒアリング、および共同研究者らとのディスカッションを通して、情報支援ツールとしてのリーフレットを作成した。

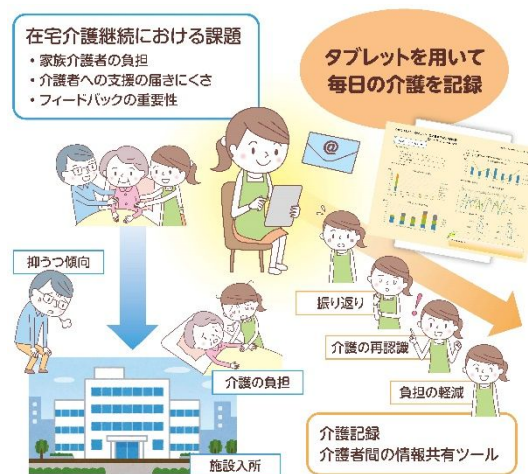
4. 研究成果

(1) 介護の時間経過に伴う介護家族の日常的縦断データ取得に関する研究(Care-VIP)

まず、在宅介護者らが毎日の介護の中で、どのように介護を担い、介護の負担を感じているかを簡便に把握するため、介護家族の日常的縦断データ取得のためのシステム(Care-VIP)を開発した。ここでは、日常的に介護の負担を感じている介護者らの利便性を考慮すること、またその調査手法に関して、インタビュー調査を通してフィードバックを得ることで、日常データの取得に関する調査手法についても検討を進めた。

日常的データの入力には在宅で 65 歳以上高齢者の介護を担う家族に依頼し、最終的に 81 名が調査に参加した。

このうち、介護日記を記録した 59 名の介護者、計 1676 件の日記データの解析からは、介護者が日常の介護において、要介護高齢者の身体的・認知的変動を経験していることや、それに対して、家族介護者らが自身の経験や知識を基に、要介護者のその日の状態を推測し、それに対して介護を提供している状況、また、要介護者の機能の低下や変動に対して、過度の不安や責任を感じている状況が明らかになっている。



(2) 介護レディネス研究

本調査研究では 1025 名の男性雇用者(平均 41 歳)を対象にした Web によるアンケート調査研究の解析から、親に対する介護提供の意識とその関連要因として、教育や収入、健康状態や婚姻状況といった個人の要因に加えて、親子の関係性、職場の支援状況が、男性の介護意識と関連していることが明らかになっている。

例えば、親子関係においては、定期的に会話をするといった関係を維持している親子においては、母親、父親の両者に対する介護意識が全般的に高い一方で、親から経済的支援を受けたことや子育てへの支援を受けたことなどは、親の介護意識のモチベーションとはならないことが明らかとなっている。

一方、友人の存在は母親、父親の両者に対して情緒的支援を提供するモチベーションとなりうるのに対し、職場の上司からの支援があることは、特に母親への手段的介護を提供するモチベーションになりうるということが、明らかとなった。

(3) ポスト介護研究

本調査研究では、過去半年から 1 年半以内に看取りを経験した家族介護者(以下、ポスト介護者)を対象にした質問紙調査の解析から、自身の介護や看取りの経験を半数以上が共有したり生かしたいと考えている実態が明らかとなっている。

また、これらの介護経験の汎用への関連要因としては、在宅療養期間がある程度長く、介護の経験を十分に持っていることや、看取りの後の介護者自身の健康状態が関連していることが明

らかとなっていて、地域包括ケアシステムの介護者支援の一助として機能し得る可能性が示唆された。

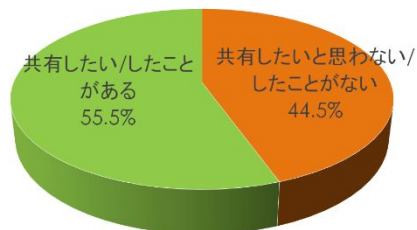


図1 介護や看取りの経験を、活かす機会があったら

(4) 情報支援ツールの開発

現在のような核家族の状況や世帯構成が小さくなっている状況においては、家族介護者は、親の介護が初めての体験であることが多い。また、介護の状況は、要介護者の身体・認知機能の状況や家族介護者の状況によって極めて多様である一方で、介護者への情報支援は一元的であることが多く、またその情報は限定的である。そこで、在宅での介護に携わる家族介護者、ポスト介護者、専門職らを対象に広く研究知見を還元することを目的とし、実施した調査研究の知見を基に、家族介護者、介護経験者、専門職らのヒアリング、および共同研究者らとのディスカッションを通して、情報支援ツールとしてのリーフレットを作成した。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Dupraz Julien, Andersen-Ranberg Karen, Fors Stefan, Herr Marie, Herrmann Francois R, Wakui Tomoko, Jeune Bernard, Robine Jean-Marie, Saito Yasuhiko, Santos-Eggimann Brigitte	4. 巻 10
2. 論文標題 Use of healthcare services and assistive devices among centenarians: results of the cross-sectional, international 5-COOP study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e034296 ~ e034296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2019-034296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 特集「一人暮らしの認知症高齢者」国民生活基礎調査からみる独居高齢者のケアの実態と今後への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 467-473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里和弘, 涌井智子, 児玉寛子, 島田千穂	4. 巻 57(2)
2. 論文標題 終末期における医療者から家族への意思決定支援が遺族の看取りの満足度に及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3143/geriatrics.57.163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 512
2. 論文標題 多様な老いと死を考える：第1回-多様な老いがもたらす老親介護の複雑さ-親の老いを受け入れることの重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 多様化する家族介護の現状と今後の介護を支えるシステムについて考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 老年社会科学	6. 最初と最後の頁 301-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中里和弘, 涌井智子, 平山亮, 島田千穂	4. 巻 55(3)
2. 論文標題 終末期ケアに関する親子間コミュニケーションの関連要因-高齢の親を持つ子世代を中心に-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 378-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 多様化する家族介護と介護保険サービス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiyama T, Tamiya N, Watanabe T, Wakui T, Shibayama T, Moriyama Y, Yamaoka Y, Noguchi H.	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Association of care recipients' care-need level with family caregiver participation in health check-ups in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International.	6. 最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 472
2. 論文標題 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること：第3回-高齢者が高齢者を支えるということ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 486
2. 論文標題 身体・認知機能が低下した人とその家族に看護師ができること：第11回-家族介護の負担を感じる時	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wakui T, Agree EM, Saito T, Kai I	4. 巻 27
2. 論文標題 Disaster preparedness among older Japanese adults with long-term care needs and their family caregivers	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Disaster Medicine and Public Health Preparedness	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 466
2. 論文標題 変わりゆく介護の姿：第12回-これからの介護を支える病院スタッフの役割-話し合いの支え手として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 58-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 446
2. 論文標題 変わりゆく介護の姿：第1回-多様化する介護家族	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 8
2. 論文標題 変わる介護家族 心と体の疲労の中で家族が親の介護をするということ	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 百歳万歳	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimada C., Hirayama R., Wakui T., Nakazato K., Obuchi S., Ishizaki T., & Takahashi R.	4. 巻 S1
2. 論文標題 Reconsidering Long-Term Care in the End-of-Life Context in Japan.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International.	6. 最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.12736	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wakui T, Agree EM, Saito T, Kai I.	4. 巻 .
2. 論文標題 Disaster preparedness among older Japanese adults with long-term care needs and their family caregivers.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Disaster Medicine and Public Health Preparedness.	6. 最初と最後の頁 .
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 446
2. 論文標題 変わりゆく介護の姿：第1回-多様化する介護家族.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 看護のチカラ	6. 最初と最後の頁 74-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 12(134)
2. 論文標題 介護の世界自分の視点・他人の視点(9) -介護する家族 -人はなぜ、家族の介護をするのでしょうか？	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 介護人材Q&A	6. 最初と最後の頁 94-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 涌井智子	4. 巻 12(129)
2. 論文標題 介護の世界自分の視点・他人の視点(4)-要介護高齢者の災害準備を考える-.	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 介護人材Q&A	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計38件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 27件)

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Suguru Okubo, Nanako Tamiya, Taeko Watanabe, Tatsuro Ishizaki, Ichiro Kai
2. 発表標題 Do the Presence of Adult Children and their Marital Status Matter for Access to the Public Long-term Care System?
3. 学会等名 Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ryo Hirayama, Tomoko Wakui
2 . 発表標題 “ What Counts Is Not My Own But Siblings ’ Circumstances ” : Adult Children ’ s Perceived Responsibility for Parental Care in Japan.
3 . 学会等名 National Conference of Family Relations Annual Conference. Fort Worth, Texas, USA. (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tomoko Wakui, Emily M Agree, Ichiro Kai.
2 . 発表標題 A New Feature of Japanese Caregiving? Compound Caregiving of Older Adults in an Aging Society with Fewer Children.
3 . 学会等名 Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai
2 . 発表標題 What Shapes Adult Sons ’ Incentive for Parent Care in Japan? Effects of Work and Family Circumstances.
3 . 学会等名 Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ryo Hirayama, Tomoko Wakui.
2 . 発表標題 Nontraditional Views? How Siblings Matter for Perceived Parental Care Responsibility in Japan.
3 . 学会等名 Gerontological Society of America 2019 Annual Scientific Meeting. Austin, Texas, USA (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Nanako Tamiya, Emily M Agree, Ichiro Kai.
2. 発表標題 Supporting Caregivers to Support Family Members with Dementia -Diversification of family care arrangements and new approach to support.
3. 学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ichiro Kai, Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree.
2. 発表標題 Delineating Daily Caregiving as Experienced: Analysis of Daily Data from Family Caregivers in Japan.
3. 学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 涌井智子.
2. 発表標題 家族介護のトレンド解析による家族の介護力の検討.
3. 学会等名 第29回日本家族社会学会大会, 神戸学院大学, 神戸.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 涌井智子、平山亮、甲斐一郎.
2. 発表標題 在宅介護の見える化が明らかにする介護の日周変動と家族介護者の対処行動.
3. 学会等名 第61回日本老年社会学会大会, 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス, 仙台.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai.
2. 発表標題 Japan's Experiences in Integrating Technology and Long-term Care -Practical Challenges of Collecting Daily-data Using Tablets among Family Caregivers of Community-dwelling Older Adults with Long-term Care Needs.
3. 学会等名 18th STS Conference 2019, Graz, Austria. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Nanako Tamiya, Emily M Agree, Ichiro Kai.
2. 発表標題 Supporting Caregivers to Support Family Members with Dementia -Diversification of family care arrangements and new approach to support.
3. 学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. Taipei, Taiwan. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai.
2. 発表標題 Delineating Daily Caregiving as Experienced: Analysis of Daily Data from Family Caregivers in Japan.
3. 学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 涌井智子、平山亮、甲斐一郎.
2. 発表標題 在宅介護の見える化が明らかにする介護の日周変動と家族介護者の対処行動.
3. 学会等名 第61回日本老年社会学会大会, 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス, 仙台.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Ryo Hirayama, Emily M Agree, Ichiro Kai.
2. 発表標題 Japan's Experiences in Integrating Technology and Long-term Care -Practical Challenges of Collecting Daily-data Using Tablets among Family Caregivers of Community-dwelling Older Adults with Long-term Care Needs.
3. 学会等名 18th STS Conference 2019, Graz, Austria. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryo Hirayama, Tomoko Wakui.
2. 発表標題 Unmanageable Responsibility? Gendered Perceptions of Parent Care among Adult Children at Working Age in Japan.
3. 学会等名 The 71st Annual Scientific Meeting, Gerontological Society of America. Boston, Massachusetts, USA. Nov. 14- 18, 2018. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Ichiro Kai.
2. 発表標題 Informal Male Caregivers' Work Productivity Loss: Absenteeism and Presenteeism.
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会, ビッグパレット福島, 福島. 2018年10月24-26日.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kazuhiro Nakazato, Chiho Shimada, Tomoko Wakui, Hiroko Kodama.
2. 発表標題 The families' verbalizing of gratitude and apology to patients at end of life - a questionnaire survey with bereaved family members-.
3. 学会等名 International Conference on Communication in Healthcare 2018. Porto, Portugal. Sep. 1-4, 2018. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Wakui, Emily M Agree, Ichiro Kai
2. 発表標題 Impacts of Changing Families on Public Long-Term Care Insurance Program in Japan
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 児玉寛子、涌井智子、中里和弘、島田千穂
2. 発表標題 家族介護者における介護経験の活用可能性に関する探索的研究
3. 学会等名 第20回日本老年行動科学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryo Hirayama, Madoka Ogawa, Tomoko Wakui
2. 発表標題 A Dyadic Approach to the Relational Context of Spousal Caregiving
3. 学会等名 National Conference of Family Relations Annual Conference. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Emily M Agree, Tomoko Wakui
2. 発表標題 Caregiving Networks and Benefits of Caregiving: Differences by Race and Ethnicity
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chiho Shimada, Ryo Hirayama, Kazuhiro Nakazato, Tomoko Wakui
2. 発表標題 What Encourages Japanese Adult Children to Initiate End-of-Life Discussion With Aging Parents?
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuhiro Nakazato, Ryo Hirayama, Tomoko Wakui & Chiho Shimada
2. 発表標題 The Relational Nature of Children's Perceptions of Parental Aging: Findings From a Japanese Sample
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryo Hirayama, Chiho Shimada, Tomoko Wakui & Kazuhiro Nakazato
2. 発表標題 Intergenerational Solidarity and Parent-Child Discussion on End-of-Life Care in Japan
3. 学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 涌井智子, 中里和弘、児玉寛子、島田千穂
2. 発表標題 看取りを終えたポスト介護者の介護経験汎用に関する研究
3. 学会等名 第59回日本老年社会科学学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 栗延孟、涌井智子、石崎達郎
2. 発表標題 定年退職者が仕事をはじめたきっかけと生きがいとの関連-再就職した高齢者に対するインタビュー調査から-
3. 学会等名 第59回日本老年社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shimada C., Hirayama R., Nakazasto K., & Wakui T
2. 発表標題 Advance Care Planning for Whom? Sociocultural Influences on Older Adults' Views on End-of-Life Care in Japan
3. 学会等名 The 23rd Nordic Congress of Gerontology (23NKG) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nakazasto K., Wakui T., Hirayama R., & Shimada C
2. 発表標題 The Nature and Components of Filial Involvement With Advanced Care Planning for Parents in Japan
3. 学会等名 The 23rd Nordic Congress of Gerontology (23NKG) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 島田千穂、中里和弘、平山亮、涌井智子、伊東美緒、大澤誠
2. 発表標題 終末期医療に関する家族との事前のコミュニケーション促進・阻害要因～家族への配慮はどうか～
3. 学会等名 第21回老年看護学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wakui T., Hirayama R., Nakazato K., & Shimada C
2. 発表標題 Do Parents' Care Needs or Adult Children's Caregiving Roles Matter for End-of-life Care Preparedness?
3. 学会等名 The 23rd Nordic Congress of Gerontology (23NKG) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中里和弘, 島田千穂, 涌井智子, 平山亮
2. 発表標題 終末ケアに関する親子間の会話に影響する子どもの態度
3. 学会等名 第58回日本老年社会科学学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 涌井智子, 中里和弘, 平山亮, 島田千穂
2. 発表標題 終末期ケアプランニングに向けた親子間コミュニケーションと親の介護ニーズとの関連
3. 学会等名 第58回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 島田千穂, 中里和弘, 涌井智子, 平山亮
2. 発表標題 親の終末期医療の意思決定に向けた子の態度とその関連要因
3. 学会等名 第58回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Wakui T., Agree E.M., Saito T., Ishizaki T., & Kai I.
2. 発表標題 Changes in Japanese family caregiving over the last decade and their impacts on caregiving.
3. 学会等名 The 68th Annual Scientific Meeting, Gerontological Society of America (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Wakui T., Agree E.M., Saito T., & Kai I.
2. 発表標題 Relationship between Social Support and Caregiving Burden in Dual Caregiving Responsibilities.
3. 学会等名 International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Region 10th Congress. (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Wakui T., Agree E.M., Ishizaki T., & Kai I.
2. 発表標題 Changes in Japanese Family Caregiving Over the Last Decade: Diversification of Caregiving Arrangements and Support Needs.
3. 学会等名 International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Region 10th Congress. (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Wakui T., Kodama H., Ishizaki T., & Kai I.
2. 発表標題 Challenges to promoting disaster preparedness among community-dwelling older adults with care needs in Japan.
3. 学会等名 International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Region 10th Congress. (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ito M., Gineste Y., Marescotti R., & Honda M.
2. 発表標題 BPSD improvement of elderly dementia and burnout reduction of their caregivers by a multimodal comprehensive care methodology
3. 学会等名 Nursing home research International Working Group (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Ikeuchi T, Wakui T, Boe JB, Husebo B & Shinkai S.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Fagbokforlaget (Norway)	5. 総ページ数 (in press)
3. 書名 What can we learn from Japan? Technological solutions in the field of elderly care. In A textbook in elderly care and nursing home medicine.	

1. 著者名 Wakui, T, & Cheng. ST.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 2550
3. 書名 Filial Responsibility in Encyclopedia of Geropsychology	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>公的介護として私的介護のバランス～介護の見える化プロジェクト～ https://long-term-care.net/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	島田 千穂 (SHIMADA CHIHO) (30383110)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究副部長 (82674)	
研究分担者	平山 亮 (HIRAYAMA RYO) (10728075)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員 (82674)	
研究分担者	中里 和弘 (NAKAZATO KAZUHIRO) (90644568)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員 (82674)	
研究分担者	児玉 寛子 (KODAMA HIROKO) (50424007)	青森県立保健大学・健康科学部・准教授 (21102)	
研究分担者	伊東 美緒 (ITO MIO) (20450562)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員 (82674)	
研究分担者	高橋 龍太郎 (TAKAHASHI RYUTARO) (20150881)	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（東京都健康長寿医療センター研究所）・東京都健康長寿医療センター研究所・研究員 (82674)	